

---

# こんとろーる・おると・でりーと

夢来

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

こんとろーる・おると・でりと

### 【Nコード】

N1206W

### 【作者名】

夢来

### 【あらすじ】

そこに綴られたのは、私たちの愛の詩。

こんとろーる・おると・でりと

(あの日の情事に、強制終了)

そこに綴られたのは、私たちの愛の詩。

初々しく見つめあった日々。手を繋ぐだけで顔を赤らめた日々。体に触れようとした指が馬鹿みたいに震えていたことだとか、抱き締めた腕の力が強すぎて窒素しそうになった話とか……。

パソコンの画面に写るのは、そんな私たちの『愛の日々』。

いつしかキスをするのも照れなくなつて、素肌に触れてきたのは確か彼から。熱い肌を重ねて、貪るように揺さぶられて……。燃えるように熱く、嵐のように激しく、愛された。

そんな日々にも、お別れを告げる。

左手の薬指を、C t r iキーに。嵌められたのは、小洒落た装飾のシルバリング。

次に人差し指を、A l tキーに。今の私に、躊躇いなんてない。最後に右手の人差し指を、D e lキーに。深い傷や酷い汚れは、落とそうと思つてもなかなか消えないけれど。

白く、白く、限りなく『綺麗』に近く、『塗り直す』ことはできる。

こんとろーる・おると・でりーと

(あの日の情事に、強制終了)

「ただいまーっ」と

私がパソコンのキーボードから指を離れた所で、タイミングが良いか悪いのか、彼が帰ってきた。

「いつも買ってるコーヒード豆が売り切れててさ、いい機会だから別のを買ってみようと思ったんだけど、これが意外と悩んだわけだ」  
リビングに入ってきた彼は、大きなビニール袋を二つ下ろした。

「おっ、パソコンやってた? ……って、お前ええええええ!」

へらへらと笑いながら近寄ってくる彼。人懐こい犬のように私のすぐ後ろまでやってきて、彼は絶叫した。

「うるさい」

「ちよっ、人のブックマとか勝手に見るかよ！ 親しき仲にも礼儀ありつてなあ、」

「うるさい黙れ。見られて困るようなもん保存しとく方が悪いんでしょ？」

「それは……って、何このページ？ えーと……クリック。……ぎゃあああああああああああ！」

「うるさい黙ればかやろっ」

私が開いていたページを操作して、二、三個前のページに戻った馬鹿。そのページを見た彼は、目をカツと見開いて大声を上げた。

「おまつ……寝る間も惜しんで書いた俺の趣味小説をつ……！」

「そんな下らない物、寝る間も惜しんで書かないでちょうだい！」

「下らないことなんかねえよ！ これはなあ……」

「うるさい黙ればかやろっこのやろっ。そんなエロエロ18禁小説、実名で書かないでよ！」

「あああ……俺たちの愛をモデルにした完全版恋愛官能小説だったのに。まだどこにも投稿してなかったのに……」

「それ聞いて安心したわ」

項垂れるエロと下ネタの申し子、残念過ぎるイケメンを尻目に、私はキツチンに向かう。

あの馬鹿野郎が新しい豆を買ってきたらしい。淹れるのが楽しみだ。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1206w/>

---

こんとろーる・おると・でりーと

2011年10月8日10時30分発行